# 〈コラム:関係団体からの寄稿〉

#### 四万十塾 オープンジャパン 木村 と一る

地球にやさしいライフスタイルの提案やカヌーガイドを 本業にもち、炊き出しを中心に多様な活動を行う。

震災前に腕を骨折していたのですが、「片腕でも現地 に行けば何かは出来る!!」と、ワゴン車にカヌーを載せ て来石。すぐに炊き出しを開始しました。思えば勢いと は怖いものです (笑)

いずれいなくなる人間だけがフロントに立つのではな く、地元の方々が主導して炊き出しを開催できるよう、 雰囲気作りを心がけました。"食事を作る"自体がエネ

ルギーの循環でもあるし、一所懸命に働く姿は元気の素へと繋がります。 個性を活かす仲間たちと共に作り上げた心のこもった温かい食事、炊き出し 総数は"111,165食"に上ります。

炊き出しにビュッフェスタイルを取り入れたり、生ゴミの堆肥化活動など に加え、船外機船が入れない港湾内では、カヌーイストの経験を活かして仲 間と共に複数のカヌーを漕ぎ出し、海辺の瓦礫撤去も大規模に行いました。



#### 個人ボランティア 中村 真菜美

複数団体のボランティアコーディネートの他、団体間の 連携調整、地域の催事の運営サポート等を担う。

光など誰にも見えなかったあの頃。私達は毎晩のよう に石巻専修大学の一室に集い、その日の活動報告や新た な情報、直面している問題について毎日遅くまで話し 合っていました。

私が議長(\*1)を務めた発災年からの1年間、個々の団体が自らの役割を果 たすことに留まらず、時には団体の垣根を越え共に現場で汗を流し、地元の 方々と一緒になって地域の催事や復興市、追悼行事の裏方をも担いました。

今では状況も移り変わり、毎日のように膝を突き合わせて集まることも無 くなっています。でも、それでもこの場所で大切なことを見失わずに踏ん張っ て来られたのは、あの日々があったからではないでしょか。

共に手を添えるからこそ守れるものがある。それを体感させてくれた大切 な場です。(\*1)連絡調整会議(全体会P13頁参照)議長を2011年5月より務める。

# JIM-NET 川添 圭子

型括支援センターに籍を移し、保健師として尽力している。

現地入りした当時はまだまだ急性期で、地域医療どこ ろではないという雰囲気でしたが、石巻赤十字病院や市 役所と協議を重ね、主に介護保険に関わる活動を開始で きることになりました。



地域の保健師さん・ケアマネージャーさん達と連携して、もう兎に角動き まわって一地区の要介護度5から2の高齢の方、100人程度を要フォロー 者として素早く見つけ出すことができ、その内の80人ほどにサービスの提 供を行っていました。

何より看護師2名という体制でしたので、取りこぼしの無いよう高齢者を 訪問するので必死の日々が続き、何かを感じている暇もなかったのですが、 介護サービスの一端を補完するとこで、医療系NGOとして地域に入り込ん だ活動が出来ました。



特定非営利活動法人JEN 西村

発災直後より、炊き出し・物資配布・コミュニティ 支援など、地元雇用を創出し、ひとりひとりの心 の復興と自立に向けた活動を展開しました。沿岸

部や牡鹿半島においては生業支援や地域課題解決のサポートも行い、石巻の復興 と活性化に向け、地域の魅力や元々持っている自立力と未来への希望に心を寄せ ることを大切に、活動しています。

協議会という場を介し、志を同じくする多くの仲間たちと出会うことができま した。多様なボランティアやNPO等がお互いのリソースを交換し、知恵を出し 合うことによって、より良い支援を行うことができたのだと思います。ここ石巻 で培われた経験は、必ず次の災害時においても活きてくるのだと確信しています。



**Š災害復興支援協議会** 

# 事業報告

第1期

2011年5月13日~9月30日

第2期

2011年10月1日~2012年9月30日

# 4-1. 災害対応事業

# ~支援を受ける、つなげる~

# ■連携調整事業(2011年5月~2012年9月)

#### **■連携調整事業**(2011年5月~2012年9月)

2011年3月20日の第1回「NPO・NGO連絡会」発足より2012年9月 末までに、石巻に災害支援活動に集まった団体が情報を共有するため の連絡調整会議(以下、全体会)を、通算282回(法人化後は231回) 実施しました。

また、全体会にて報告される各団体の活動内容を記録・集計するこ とで、石巻で展開されたNPOの活動内容を面的に把握。災害対策本 部等にNPOの活動人数等を報告、行政や災害ボランティアセンター、 各機関との連携調整を行いました。また、震災直後から石巻圏域に集 まるNP〇の登録を開始し、2012年5月末の登録数は344団体に達っし ました。



石巻市災害対策本部でNPOの活動を報告

#### ○行政機関等との調整

石巻市の災害対策本部にオブザーバーとして参加し、NPOの支援 活動について報告を行ったほか、市役所・自衛隊との三者会議に出席し、 炊き出しや物資配布について情報を交換しました。また、仙台で開催 された復興庁、宮城県庁、宮城県社会福祉協議会、NPO関係者が参 加する被災者支援連絡調整会議等にも参加し、行政機関や社会福祉協 議会や他地域のNPOと密な調整を行いながら活動しました。

#### ○炊き出し・イベント調整

炊き出し支援を実施する団体等からの申し出を受け付け、重複しな いように炊き出しニーズのある場所を紹介しました。2011年3月の調 整開始より 10月 11日までに通算約878,000食(5月13日の法人化か らは約381,000食)の炊き出し調整を行いました。炊き出しの他にも 各種支援提供の相談窓口となり、県内外のボランティア団体や企業か ら提案のあった支援イベント等の受け入れを調整しました。



炊き出し場所をマッピング

仮設サロン支援連絡会

#### ○仮設サロン支援連絡会

仮設住宅の入居者に対する支援が本格化した2011年8月に「石巻仮 設サロン支援連絡会」を立ち上げました。開催回数は2012年9月末ま で計 47 回を数えます。石巻地域に密着して仮設支援を行う 10 ~ 20 団 体が集まり、地域ごとの事例を共有し、民業圧迫の防止や自立を促す 観点から「仮設住宅での物資配布を極力控える」方針について合意す るなど、支援のあり方についても真剣に議論を重ねてきました。仮設 住宅への見守り(戸別訪問支援)を行う石巻市社会福祉協議会とNP 〇が情報交換・連携する場としても貴重であり、発災より2年後も継 続しています。



連絡会の開催

#### ○請負事業 (ボランティア調整業務) (2011 年 8 月~ 2012 年 3 月)

震災直後は無償ボランティアが担っていた調整業務について、石巻 市から8月に緊急雇用創出事業を請け負ったことで、連携調整の事務局 を継承しました。被災地石巻における求職者17名を新規雇用、石巻の 住民が主体となって記録を残しながら業務を行いました。2012年3月の 請負事業終了まで、NPOの活動成果や連絡会の打ち合わせ議事録を 石巻市へ報告しました。

#### ○ボランティアサポート (2011 年 5 月~ 2012 年 9 月)

法人化前の5月9日から6月30日迄、石巻専修大学に集まるボランティ アが活動場所まで移動するためのバス2台の運行費用(各35日、55日間) を支援しました。また、避難所の衛生管理対策に役立つカビやダニ対 策を学ぶ講習会、写真撮影講習会、団体の資金調達に関するセミナー 等を開催したほか、助成金申請に関する相談や備品の貸出等、石巻で 活動するNPOをサポートしました。



「助成金申請の理解」ミニ講座



3トントラックを改造した寝具乾燥車

## **■避難所生活環境改善事業**(2011 年 5 月~ 2011 年 9 月)

石巻市の避難所50か所、のべ4,282人を対象に、寝具の廃棄(6,389 枚)、乾燥(5,881枚)、毛布配布(4,247枚)、防虫対策、清掃などの衛 生改善活動を実施しました。

※ジャパン・プラットフォームの助成を受け、キャンナス、日本イラク医療支援ネットワー ク (JIM-NET)、日本プライマリ・ケア連合学会 (PCAT)、ピースボート災害ボラ ンティアセンター、め組JAPAN、石巻災害復興支援協議会の6団体のスタッフとボラン ティアが、団体の枠を超えて連携したひとつのチーム(ダニバースターズ)として活動しま した。

■車両活用事業・住環境緊急改善事業(2011年5月~2012年3月) ダイムラーAGより日本財団に寄贈された特殊車両(ゼトロス3台、 ウニモグ1台)を運用するための受け皿となり、NPO等が活動する現 場に車両を派遣する業務を行いました。また、日本財団より借り受け たダンプ5台、トラック1台の貸し出し業務や修繕費・燃料費の一部 負担も行い、震災後の復旧活動と住環境改善に貢献しました。

また、2011年12月に金華山へ合同チームを派遣するための事業費を 負担し、崩れた参道を簡易整備することで初詣客を迎えることができ ました。



海岸で 散乱した丸太を運搬する特殊車両



入浴によりくつろぐ避難者

#### **■請負事業(仮設浴場運営)**(2011 年 8 月~ 2011 年 10 月)

自衛隊の入浴支援終了後、石巻市からの委託を受けて石巻市中央と 不動町の2か所に仮設浴場を設置しました。運営は(社)ピースボート 災害ボランティアセンターの協力を得て、多い日にはそれぞれ100名以 上の利用者を受け入れました。事業期間を通しのべ11,500人に入浴機 会を提供し、避難所閉鎖のタイミングに合わせ、10月11日に終了しま した。

# 4-2. 地域づくり支援事

# ~復興に向けて~

## **■仮設住宅支援事業**(2011年9月~2012年3月)

応急仮設団地での住民間の交流を促進するため、集会所や談話室で のお茶っこ(お茶飲み会)やフラワーアレンジメント等のサロン活動 を実施しました。第2期はボランティア調整業務の一環としてサロン活 動を継続し、さらに、3トントラックを改造した移動図書館で仮設住宅 や小学校等を回り、子ども達や高齢者に無償で本を貸し出しました。



移動図書館で本を選ぶ児童



「おらほの復興市」ステージ

#### ■市民意識啓発・おらほの復興市支援事業

(2011年5月~2011年10月)

震災後の市民を元気づけ、復旧・復興に向けたメッセージを発信す るため、石巻市民向けステッカー(がんぱっぺ!石巻)を1万枚作成し、 無料で配布しました。また、地域のお祭りや催事に積極的に関わり、 束の間であっても人々に笑顔が戻り、地域の繋がりが強まることを願っ て、石巻最大のお祭りである「石巻川開き祭り」を初め、地域のイベ ントを支援しました。

また、10月16日に開催された「おらほの復興市」について実行委員 会を支援し、認定NPO法人ジャパン・プラットフォームの支援を受 けてテントリース代やステージ機材等の経費もサポートしました。

# ~地域に活気を取り戻す~

# ■復興イベント開催支援・復興ツアー調整事業

「復興市を創る会」(2011年12月~2012年9月)

「宮城県新しい公共の場づくりのためのモデル事業」として、社団法 人石巻観光協会や宮城県東部地方地域振興事務所、石巻市商工観光課、 株式会社街づくりまんぼう、社団法人石巻青年会議所の参加を得て推 進会「復興市を創る会」を立ち上げました。事業の実施主体となる事 務局を担い「新しい公共の場づくり」のための地域行事や復興イベン トの開催を支援しました。「石巻川開き祭り」や「東北元気フェスティ バル」でのボランティアコーディネート、石巻市北上地域物産振興協会



北上でのワカメ収穫体験ツアー

主催の「復興夕市」の縁日コーナー運営、観光協会主催の「ふれあい朝市」では休憩所を設置しました。また、中心市 街地の飲食店の活性化を目的とするイベント「飲むっちゃ喰うっちゃスタンプラリー」の事務局業務や「街なかMAP」 の作成も行いました。さらにボランティア活動と地域体験をかけ合わせ、ワカメ収穫体験の後に飲食クーポンにより中 心部で夕食を取ってもらう復興ツアーを企画・実施しました。泥かきなどのボランティア活動へのニーズが終息する中 で、引き続き圏外の方々にも復興や地域づくりに関わってもらうための仕組みづくりに取り組んでいます。



飲むっちゃ喰うっちゃスタンプラリー



「ふれあい朝市」での休憩所運営

# ~震災を語り継ぐ~

#### ■震災の語り部事業(2011年9月~2012年9月)

東日本大震災の記憶を全国の皆さんに伝承することも大切な復興支 援と考え、千年先まで語り継ぐ想いで「語り部」プログラムを始めま した。聴く方々に改めて自然災害について考えてもらい、防災意識の 涵養を訴える機会とすることが目的です。開始から2012年9月末までの 期間に、合計128回、のべ3,272名に対して「語り部」を実施しました。

一般の石巻市民に語り部として言葉を紡いでいただき、室内で写真 や映像を使用しながら3月11日当日の日体験をお話しいただいていま す。個人的な体験談のため、話し手によって内容はそれぞれですが、



写真やモデルを使った語り部

東日本大震災における苦しみや悲しみを二度と繰り返さないで欲しいというメッセージを込めて語っていただいてい ます。また、「語り部」を聞いていただいた後、参加者から要望がある場合には石巻市内をスタッフが案内し、訪問 者に対し被災の状況をお伝えしています。

## ~経験を生かす~

#### ■緊急支援

世界的に見ても自然災害が多い日本。特に 2011 年は東日本大震災以降も各地で豪雨や台風など、自然災害に見舞



和歌山への救援ボランティア派遣

われました。私たちは全国から頂いた温かいご支援に対する恩返しの 気持ちもこめ、石巻に集まった支援団体とともに、災害救援活動を行 いました。

2011年7月新潟県三条市、豪雨による水害支援 (ボランティア派遣)

2011年8月福島県金山町、豪雨による水害支援 (ボランティア派遣)

2011年9月和歌山県那智勝浦、台風による水害支援 (ボランティア派遣)

2012年5月茨城県つくば市、竜巻災害支援 (支援活動用物資の提供)

# ~伝える~

#### ■情報発信

国内外の皆さまに石巻の現状をお伝えするため、発災1か月目の 2011年4月11日にウェブサイトを開設し(独立行政法人防災科学技 術研究所より提供された e コミュニティ・プラットフォームを活用)、 ボランティアが利用するテントサイトの運営ルールや全体会の議事録 を公開し、NPOの活動の様子などを写真を交えて発信しました。また、 被災状況だけではなく、石巻が誇る歴史や文化も広く伝えるため、「石 巻ちょこっと話」等の掲載も行いました。



webサイトによる支援情報の発信

#### ■講

県内外からの講演依頼を受け、石巻においてNPOやボランティア が行政・社協と連携しながら大規模な災害支援を行うことができた事 例を紹介しました。また、海外も含めた視察団の受け入れも積極的に 行い、防災・減災意識の向上と東日本大震災の風化を防ぐための情報 発信に取り組んでいます。



石巻における支援受入れモデルの講演